

「調べる・確かめる学習」における

教師の指導・助言のあり方

—— 題材 みかんの木の寺（2年） ——

足利市立御厨小学校 八木沢 久 子

1 はじめに

本校の研究主題「自ら学ぶ子供の育成」に沿って、今年度は重点資料として国語科の学習指導法について研修を進めてきた。新学習指導要領の目標には「国語を正確に理解し表現する能力を養う」とあり、国語の能力の育成に重点が置かれている。そこで、児童の学力の実感の最も低い「理解」領域を取り上げ、「文章の叙述に即して内容を読み取る能力を高める指導」という主題を設定した。

私の今までの理解指導をふり返ってみると、教師主体の一問一答式の授業で、内容把握にかたより技能や能力が育っていないことに気づいた。今後の国語科の授業では能力の育成が重要であることから、子ども主体の学習が成立しなければならない。そのため、子どもが自ら学びとる学習の手順や方法を考え、文章の読み方を身につけさせる「学習課程」を作成した。その学習過程の中で、子ども自身が作った学習問題について、「ひとりで調べたことをみんなと確かめる」過程の実践をまとめてみたいと思う。

2 「調べる・確かめる学習」過程についての基本的な考え方

始めに「見通しを立てる学習」において、読みのめあて（単元の目標）を立て、文章を読みながら各自が学習問題として意識したものを、全体の話し合いで共通の学習問題とする。そこで、次の「調べる・確かめる学習」過程において、その学習問題を「ひとり調べ」する。その結果を共同思考の素材として話し合い、深め合うのが「みんなと確かめる」段階となる。そうすることによって、各自が学習の修正をし、読み取りの技能を高めていくのである。

この過程では、教師の指導・助言の工夫が最も必要であり、子ども自身も「ひとり学ぶ」の成就感にひたれる。特に低学年の場合は、文や文章に即して、語句の存在に気づかせながら、人物の気持ちや様子を想像させることを、重点的に取り入れてみた。

3 実 践

① 第2学年国語科学習指導案

2年2組指導者 八木沢 久 子

1. 単元名 気持ちを考えながら読みましょう（どうわ「みかんの木の寺」 光村2年）

2. 目 標 (1)登場人物といっしょに喜んだり悲しんだりしながら読んで思いやりの心を培う。

(2)①時間的順序や場面の移り変わりを中心にして、内容を理解しながら音読することができる。

②人物の性格や場面の様子を想像しながら読むことができる。

そのために次の事項について段階的に習得させる。

- ・時期がわかり，日を追って筋が展開していることが話せる。
- ・場面ごとの行動，できごとが言える。
- ・子供たちの行動や会話を読んで，思ったことを書いたり話したりすることができる。
- ・おしょうさんと子供たちとの接近の度合いを考えて，表などにまとめられる。

(3)(1)(2)の指導を通して，次の言語事項について指導する。

- ・漢字の読み書き（寺・道・門・帰る・毎日・少し・声・紙・下がる・走る・風・方）
 - 語句の意味を明確にすること（本どう・おしょうさん・ひさし・のんびり）
 - 動作化（はなをクスンクスンさせる・ゴクリとのどを鳴らす・そっと手をのばす，こそこそと帰る）
 - 短文作り（なんともいえないいいにおい・はなのおくをくすぐる・ふしぎなくらい・とうとう・ところが・声を立てる・ちょこん）
 - 時間的な順序や場面を表すことば（五月のおわりごろ・秋になりました・ある日・そのつぎの日・またそのつぎの日・とうとう・ふだがかげられたつぎの日）
 - 指示語（それ・この・その・こう・こんな・あんなに）
 - 接続語（すると・それから・そこで・そして・ところが）

3. 指導計画 総時間 12時間

過程	目 標	内 容	時間
立見 て通 る学 習を	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の力で全文を読み通し，読めない文字・意味の不明な語句などをはっきりさせる。 ○ 読みのめあてを立て学習のしかたを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前テスト ○ 自力で読む ○ 漢字・語句を調べる ○ 場面をつかむ ○ 第一次感想 ○ 学習計画 	2
調 べる 学 習か	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面ごとにだいたいな文をおさえ学習問題を作りそれをひとりで調べみんなで確かめる。 ○ 場面ごとに読み子供たちとおしょうさんの行動や会話から性格や気持ちを読みとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第一の場面（名前の由来） ○ 第二の場面（叱られる） ○ 第三の場面（ボール紙の札） ○ 第四の場面（かごの中のみかん） 	6 1 $\frac{2}{2}$ (本時) 1
学 習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物について感想をまとめ話し合う。 ○ 漢字・語句・音読の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手紙形式での感想文 ○ 漢字練習 ○ 短文作り ○ 視写 ○ 音読 	3
る 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の読み物を読み，あら筋や感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書 	1

4. 本時の指導

- (1) 題 目 みかんの木の寺
- (2) 目 標 ①「その次の日」以下の時間を表すことばにそって場面のできごとがいえる。
 ②語句や文から想像したことを話したり書いたりできる。
- (3) 展 開 (~~~~ 線以下の 時間・形態・資料・評価の観点の欄は省略)

過程	具体目標	学習活動	指導上の留意点
学習問題を知る	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習問題をとらえること。 	1. 本時の学習問題と学習方法を知る	<ul style="list-style-type: none"> ○前時にひとりで調べた学習問題をみんなで話し合って確かめる学習であることをおさえる。 ○学習方法は、前時に作業用紙に書き込んだ札の言葉から、その時のおしょうさんの気持ちを読みとることと、子供たちの行動を調べて気持ちを想像することであることを知らせる。
学習問題を調べる・確かめる	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題をみんなで調べ確かめること。 ○おしょうさんの札から気持ちを想像して話すこと。 ○時間を表す言葉にそって場面のできごとがいえろ。 ○子供たちの気持ちを想像して話すこと。 ○おしょうさんと子供たちの気持ちの接近度をとらえること。 ○子供たちの気持ちを自分の言葉で表現すること。 	2. みかんの木に次々と札が下げられる場面を読む。 3. 学習問題を確かめる ①おしょうさんはどんなふだを書きましたか。 ②どうして札を下げたのですか。(話し合い) おしょうさんの気持ちを数字の線上に表す。 ③子供たちは札を見てどうしましたか。(発表) その時の気持ちを想像する。(話し合い) 気持ちの接近度をグラフにする。 ④みかんがないのを知ってみんなはどうしましたか(書き込み・話し合い)	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や口形に注意して、はっきりとした発音で本時の学習場面を音読させる。 ○言語事項の指示語・接続語に注意して読ませる。 ○前時に書き込んだものを確認させる。 ○札を書いた時のおしょうさんの気持ちを想像させ話し合わせる。「まだ」「あと・まだ」「一まで・おまち・あと」に留意させる。 ○おしょうさんのみかんをあげたい気持ちは変わっていないことを視覚的にとらえさせる。 ○いちろうたちが、いつ、どうしたのか時間を表す言葉を押さえながら明らかにさせる。「そのつぎの日」「またそのつぎの日」「こんなふだがかげられたつぎの日」に留意させる。 ○子供たちの行動からおしょうさんの気持ちへの接近度を数字の線上に表しグラフにさせる。 <div style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分がいちろうたちの仲間になったつもりで、言いたいことを作業用紙に書き込ませる。

過程	具体目標	学習活動	指導上の留意点
まとめ	文章の内容を考えながら音読すること	4. 子どもたちの行動を正しく視写する 5. 音読する 6. 次時の学習予定を知る	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題③でおさえた、子供たちがどうしたかについて、本文を視写する 会話文、おしょうさんの札の文、その間の文と読み手を指名して想像しながら音読させる。 次の場面の学習問題作りと調べる・確かめる学習をすることを知らせる。

② 教材研究 (略)

③ 授業の記録 (T…教師 P…児童)

T 学習問題の1番から確かめていきましょう。

おしょうさんはどんな札を書いたのですか。

(児童、3枚の札の言葉について答える。)

T 2番は、おしょうさんの心の中を想像して書いたのですね。最初の札の時の気持ちは。

P まだまだすっぱいぞ。おいしくならめし上がれ、と書きました。

P もうすぐだからがんばれ。もうすぐあげるよ。

T おしょうさんの札は「とるな。」ですが、心の中はちがうんだね。「まだ」という言葉に、後であげるという気持ちが出ていますね。

では、紙の下の方に書いてある5本の数字の線におしょうさんの気持ちを入れていきたいと思います。みかんをあげたい、という気持ちだから5のところに印をつけておきましょう。2枚めのふだの時の気持ちはどうだったのですか。

P いい子どもたちだな。後でいっぱいあげるからな。

P あと少しだから、もう少し我慢してくれ。

T この時も、おしょうさんの気持ちはみかんを。
P全 あげたい。あげる。

T 最後の札の時の気持ちは、どうだったかな。

P あと1日待つとおいしくなるから、あした取ってやるよ。

P とうとうあしただぞ。かごにいっぱいつめて

くれるからな。

T おしょうさんの気持ちは、3枚めの札の時も
P全 あげたい。(数字線上5に印)

T 3番の問題「子供たちはどうしましたか」は様子が見える文をさばします。(学習の手引・様子が見える文を示す)誰が、どこで、何をしたかがわかる文を見つけてください。いつのことかがわかる言葉を何ていったっけ。(手引・時を表す言葉を示す)

P全 時を表わすことば

T では、始め、子供たちはどうしたのですか。

P その次の日も、みんなは、またみかんの木の下に集まりました。

T 「その次の日」の「その」は何をさしているのか考えてください。

P みんなはばらばらとにげました、というつぎの日です。

T この時の子供たちはどんな気持ちだったの。

P きょうこそ取ってやる。

P いつも失敗ばかりしているから、今日は、いっぱい取って食べてやるぞ。

T はい、こう思ったんだね。すると、どうだったんですか。ボール紙の札が下がっていましたね。それで子供たちは。

P みんなは顔を見合わせて、笑いながらこそこ

そと帰りました。

T この時の気持ちはどうですか。「こそこそ」というのは、どういうこと。どんな時こそこそとしますか。

P だろぼうなんかがしのび込む時。

T 悪い事する時、見つからないようにこそこそするんだね。そんな子供たちの気持ちは。

P 残念だな、もう少しで取れたのに、です。

T おしょうさんの札を見てから、子供たちの気持ちはどうなったの。札の通りにしましたか。

P全 した。

T おしょうさんの札の通りにしたんですね。最初は黙って取ってやろうとしたけど、札の通りにしたんだから、おしょうさんの心に少し近づきました。(数字の線一段上げて印)

— 中 略 —

T 本当に4、5日待ちました。どんな気持ちで待ったの。(3枚めの札を見てから)

P みかんをくれると思って待った。

T 3枚めの札がかけられてからは、どうしましたか。この札を見て、どうしたって。

P 次の日のことでした。いちろうたちはみんなでそろってお寺の門を歩いて行きました。

T どんな気持ちだったと思う。そろって、です。こそこそとは、ずい分違うね。

P 甘い甘いみかんが食べられて嬉しいな。

P もう、みかんが甘いかな。

P 今日は、やっとうまいみかんが食べられるのだから。楽しみだな。

T そうね。今日こそもらえるんだぞって気持ちだったんですね。おしょうさんの方へ、気持ちは、どのくらい近づいたろうな。

P全 あと一段上げる。

T こういうふうに、気持ちが近づいてきた。さ

あ、だけど、どうだったんですか。

P みかんがなかったんです。

T 子供たちのしたことで言うと。

P 「あっ」とみんなは、思わず声を立てました。

T そうね。子供たちの気持ちはどうなっちゃったと思う。

P全 離れちゃった。

T おしょうさんと食べるつもりだったのに。ショックね。どの辺まで離れちゃうの。

P全 下。一番下

T せっかく言う通りにしてたのに、子供たちは何て言った。

P おしょうさんにだまされた、と言いました。

T そこで、4番の問題。もしも、自分がいちろうたちの仲間にいたら何て言ったかな。

P 今日まで待ったけど損した。

P うそつき、と思います。

P やっとうまいみかんが食べられると思ったのに、だまされた。おしょうさんのけちんぼ。

P あのおしょうさん、うそつくのがうまいな。でも、みんなでみかんをさがそうよ。

T いろいろ出ましたね。今日は時を表す言葉がたくさん出てきました。この仲間に入れますね。

(時を表すことばの手引に「その次の日」・

「またその次の日」「～した次の日」加える)

日が変わったのがこういう言葉でわかります。

本を読んだりする時、注意しましょう。それから、

先生が青の四角で囲んだ言葉は何ですか。

P全 つなぎ言葉。(接続語のこと)

T 文と文をつなぐのですね。「すると」とか、「ところが」とかがあります。最後に読んでもらって終わりにしましょう。(指名音読)

— 以下略 —

④ 授業の反省

- ・「様子がわかる文のみつけ方」の手びきを与えて読み取らせ、「時を表すことば」と「つながることば」の手びきは、指導事項をおさえて、授業の中で作成していったので、まとめが効果的であった。
- ・おしょうさんの気持ちの想像に吹き出し法を用いたので、おしょうさんの心になって書き込めていた。また、「いちろうたちの仲間になったつもりで」という押さえ方によって登場人物になりきって読み取りがなされ、その気持ちを自分の言葉で表現できていたと思う。
- ・叙述に即して、本文の中から大事な文を選ぶ時に、主語述語が押さえられていない。今後はもっと文中の主語述語の関係に注意させ、読むこと、書くことの練習をさせていく必要がある。

4. 今後の課題

「こそこそ」「まだ」など、人物の気持ちを読み取るために重要な語句の存在に気づかせる指導、助言を与えたが、児童自らが語句に気づくように導きたい。また、確かめる学習では、一斉学習だけでなく、グループ学習も取り入れ、児童のひとり調べを、より一層生かす工夫をしていきたい。

<評>

確かめ合い学習においては、話し合いが多いわけだが、話し合うべきことは何かを明確にし、どう深めていったらよいかをわからせる必要がある。そして、その話し合いを通して、各自読みとったことを正し、深めていくというめあてを持たせることである。

この発表は、確かめ合い学習のしかたについて手引きを手がかりにして言語事項をおさえ、学習のしかたを指導しつつ学習を進めていっている。2年生の指導として、表現されていることばをおさえながら、教師といっしょに進め、学習のしかたをわからせようとし、学び方学習の芽生えを大切にしている実践例である。